

平成 19 年度富士見町アツモリソウの里環境保全事業

取り組みに至る背景・事業の目的

富士見町に自生するアツモリソウは、国内希少野生動植物及び特定国内希少野生動植物に指定されている。また、長野県の指定希少野生動植物及び特別指定希少野生動植物としても指定されており、県条例により、特に緊急に保護を図る必要があるものとして、採取の行為の原則禁止と保護施策の推進が定められている。

こうした中、富士見町では平成 18 年に住民、学校、企業、行政が協働してアツモリソウを保護するための組織「富士見町アツモリソウ再生会議」を立ち上げ、総合的な保護施策を推進している。

事業内容

19 年度は以下の取組を中心に、総合的な保護施策を推進し、自生地保護に取り組んだ。

- 保護条例の制定
- シンポジウムの開催
- 自生地環境調査の実施
- 監視パトロール及び自生地確認事業
- 先進地視察
- 国際蘭シンポジウム参加
- ポスターコンクール
- 監視活動の実施
- 培養増殖技術開発
- 保護啓発看板設置



【環境調査の様子】



【確認されたアツモリソウ】

事業効果

- 保護活動 P R、不法採取者への牽制
 - ・ポスターコンクールを始めとする一連の啓発活動により、富士見町のアツモリソウについて、町民の理解が進んだ。
 - ・監視活動中にちらしを配布した結果、平成 20 年度は違法採取を目的とした入山者が激減した。
- アツモリソウの無菌培養増殖
 - ・協力企業による無菌培養増殖技術開発研究を経て、無菌培養増殖に本格的に着手した結果、1 万株が発芽し、順調に生育している。
- 新たな野生アツモリソウ確認
 - ・自生地巡回パトロール及び自生地確認事業により、新たに野生のアツモリソウを 4 株確認した。(内開花株 3 株)(自生地での野生アツモリソウは計 11 株となった。)

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- これまでに確認されている野生のアツモリソウ 11 株の自生地を保護するため、早急に有害鳥獣用の防護柵を設置する。
- 絶滅が危惧されているアツモリソウの自生株を人工受粉し遺伝資源を確保するとともに、無菌培養増殖技術を活かして自生地にある個体数の増加を目指す。
- 監視活動を引き続き行い、不法採取者から自生地を守る取り組みを強化する。
- 人工増殖した苗の生産を本格的に行い、かつてアツモリソウが咲いていた場所に見本園を整備するための準備を始める。

【選定のポイント】

町、企業、町民の協働により、希少植物の保護に向け着実に成果を上げている。

団体名：富士見町 連絡先：富士見町総務課新しいまちづくり係 0 2 6 6 - 6 2 - 9 3 2 8 shinmachi@town.fujimi.nagano.jp http://www.town.fujimi.nagano.jp/	事業タイプ ソフト・ハード事業 事業費 5,466,441円 支援金額 3,234,551円
--	--